

▶ 翔け21世紀をになう子供たち

(東陽小6年)



このように、光町は昨年多少の混乱はあったにせよ、ひきつづいて発展の道を歩んでいることに変わりはありません。この歩みを止めることなく、更なる発展を求めて、新しい長期構想が昨年9月まとまり議会の承認を頂きました。この構想は平成8年度(1996年度)を初年度とし、平成19年度(2007年度)を目標年度とする20、21世紀にまたがる構想であります。また、この構想では、これまでの取り組みを引き継ぐとともに、新しい時代に対応した町の将来像を「プリズムタウン光―活力ある文化環境都市をめざして―」と定め、町づくりの目標といたしました。この構想実現に向かって、早速にも6ヶ年の基本計画、3ヶ年の実施計画の策定を急がなければなりません。

しかし一方で、今、日本経済は大きな変動の最中にあります。急激だった円高やバブルの崩壊は、巨額の不良債権の発生など金融不安にまで発展し、産業の空洞化等と相まって、構造的な長期不況を招いております。また、ガット・ウルグアイ・ラウンドの合意による農産物輸入自由化への動きと新食糧法の影響、急速な高齢化社会の到来等々、社会情勢は大きく変ぼうし、不況脱出への道のりは非常に不透明な状態であります。

自主財源に乏しい光町にとってはこの影響は大きく、当分の間苦難の道が続くそうでありますが、しかし決して恐れてはおりません。この苦難に耐えて、一步一步着実に、そしてひたむきに、新しい時代の夢に向かって前進を続けたいと思います。平成8年度も大きなプロジェクトは見送らざるを得ませんが、昨年実施したような、地域別行政懇談会等において町民の皆さんの意向、要望をお伺いしながら、町政の各分野において光町政発展のため努力して参りたいと思えます。町民の皆さんの一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

活 光 力ある文化環

プリズムタウン

平成8年は “第3次総合